SUPREME WHITE CEMENT

SB DUNK自体のブランド価値を一気に押し上げた
プレミアキングとして君臨するコラボスニーカーの金字塔

裏ダンクブームの興奮も冷めやらぬ2002年にリリースされたSupremeコラボのDUNKは、その後も続くDUNK人気を決定付けた1足と評しても過言ではないハズだ。ベースのSB DUNKをセレクトしたコラボモデルはダニースパなどが先行でリリースされていたものの、スケーター以外の知名度も高いSupremeコラボが与えた衝撃は絶大だった。この情報がリークされた時点では9月リリースとアナウンスされていたのだが、実際に店頭に並んだのは11月までずれ込んでいる。2ヶ月のタイムラグがスニーカーヘッズの物欲をさらに煽り、全ての在庫が発売即完売。発売時の定価が税別で1万3500円だったのに対し、その直後に20万円に迫る驚愕のプレ値で取引される事態を引き起こした。もっとも、良サイズのデッドストック品であれば、現在の取引相場は70万円を超えている。スニーカーカルチャーでは“プレ値は人気のバロメーター”なのは周知の事実。この“WHITE CEMENT”が特別な存在であることを示す、なによりの証拠だ。

このコラボモデルに与えられた“WHITE CEMENT”のニックネームは、純白のアンダーレイに、セメント色のエレファントパターンを組み合わせたアッパーに由来する。そしてスニーカーに詳しければ、ライニングのブルーを見て、このコラボモデルがAIR JORDAN 3の傑作カラー“TRUE BLUE”をサンプリングしたバックストーリーにも気付くだろう。企画段階ではNIKEの社内でも“ブランドの聖域であるAJのディテールを他者に解放すべきか”という賛否両論の議論が渦巻いたとされているが、結果としてこの試みはストリートカルチャーの歴史を大きく前進させ、NIKE SBのブランド価値を高めることにも成功している。近年のNIKEであれば、ここまで成功したプロダクトは簡単に復刻しそうだが、今のところはWHITE CEMENTを復刻させるような噂も聞こえてこない。スニーカーファンの立場として再販を望む気持ちはあるものの、このDUNKに限っては、今後も手の届かないモデルであり続けてほしいのも嘘偽りのない本音なのだ。



DUNK LOW PRO SB
- Release year : 2002
- Style code : 304292-001
- 参考商品



SUPREME BLACK CEMENT





AJ3のクールなオリジナルカラーをサンプリングした
2002年版シュプリームダンクのバリエーションカラー

WHITE CEMENTの“裏”にも見えるカラーウェイは、AJ3のオリジナルカラーのひとつ“BLACK CEMENT”をサンプリングしたバリエーション。サイドパネルに溶け込むようなブラックのスウッシュが他にはない存在感を主張している。最初期のSB DUNKらしく、シューターンタグに“SB”の文字がないのも特徴的だ。

NIKE DUNK LOW PRO SB
- Release year : 2002
- Style Code : 304292-131
- 参考商品



SUPREME RED CEMENT





アンダーレイやシューターンを鮮やかなレッドで染めた
2012年のヒット作として記憶されるシュプリームダンク

アンダーレイに鮮やかなファイヤーレッドを落とし込んだ“RED CEMENT”は、シュプリームダンク誕生10周年を記念してリリースされたプロダクト。シューターンタグの“SB”と“DUNK LOW PRO”のテキストに、時代の移り変わりが感じ取れる。発売直後から人気が高く、常に高値安定のプレ値で取引されているようだ。

DUNK LOW PRO SB
- Release year : 2012
- Style Code : 313170-600
- 参考商品

